

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：26402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04080

研究課題名(和文) 内発的将来目標に根差したリーダーシップ育成による効果的なキャリア発達に関する研究

研究課題名(英文) Effective career development by nourishing the intrinsic aspiration-based leadership

研究代表者

鈴木 高志 (Suzuki, Takashi)

高知工科大学・共通教育教室・准教授

研究者番号：90725938

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、高校生のリーダーシップ行動(以下「L行動」と略す)尺度を開発した上で、以下3研究を行った。それらは、1) L行動の背景要因としての教師の影響及び生徒の学級適応感の関係の検討、2) 内発的将来目標に基づくL行動とキャリア発達の関係の検討、3) 内発的将来目標に基づくL行動育成を目指したグループワークの効果検討、であった。これらより、1)教師の自律性支援と2)内発的将来目標とがL行動と正に関連すること、さらに、内発的将来目標に基づくL行動は学級適応感とキャリア意識を高める可能性のあることが示唆された。また、3)グループワークで内発的将来目標を強調することで、L行動を育めることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This research developed the leadership behavior index for high school students and performed following three sub-projects: research for 1) investigating the influence of teachers' autonomy support on students' leadership behaviors and the effects of leadership behaviors on the students' school adjustment, 2) examining the relationship between the intrinsic aspiration-based leadership and career development, and 3) validating the group-work intervention for the intrinsic aspiration-based leadership. By conducting these researches, we found the following: 1) teachers' autonomy support may have a positive influence on students' leadership behaviors; 2) intrinsic aspirations may have stronger relationship with leadership behaviors than extrinsic aspirations; the intrinsic aspiration-based leadership behaviors may have positive effects on school adjustments and career development; and 3) the proposed group-work model of intervention may enhance intrinsic aspiration-based leadership.

研究分野：教育心理学

キーワード：リーダーシップ行動 将来目標(アスピレーション) 内発的将来目標 キャリア意識

1. 研究開始当初の背景

平成 26 年度より開始された文部科学省のスーパーグローバルハイスクール事業に見られるように、現在、国際社会に通用するリーダーシップ養成の重要性に焦点が当てられている。しかしその一方で、目指すべきリーダーシップ像については、科学的根拠をもった明確なビジョンが存在していなかった。このため現状においては、多くの実施校が独自にリーダーシップ像を想定し、リーダーシップを、発表、議論、企画といったスキルととらえ、独自にリーダーシップ養成を行っている。この実態に対して、本研究では、わが国の教育が養成を目指すべき、生徒のリーダーシップ像について、理論的根拠に基づいた実証研究を行った。さらにその研究を基に、実践可能なリーダーシップの育成手法を開発し、これにより、近年重視される、生徒のリーダーシップ養成の方向性を明らかにし、わが国の教育における、より本質的で効率的なリーダーシップ育成を可能とすることを目指した。その際、国際的な普遍性が実証されている目標内容理論 (Kasser & Ryan, 1996) をベースとし、単なるスキルとしてのリーダーシップ像でなく、他者のあるいは社会のために自分の力を役立てたいという志向性をもった“内発的将来目標”に基づくリーダーシップ像を想定することとした。目標内容理論によれば、人生の目標は内発的将来目標 (自己成長、社会貢献など) と、外発的将来目標 (金銭獲得、名声など) の大きく 2 種類に分けられる。先行研究では、内発的将来目標を目指すことは、周囲の仲間との良好な関係性を築くことに役立つだけでなく、各人の学習意欲を高め、良好なキャリア発達を促すことが実証されている。よって本研究では、生徒のリーダーシップ像として、内発的将来目標に基づくリーダーシップ像を想定し、単なるスキルを超えて、目指すべき人生の目標を踏まえたリーダーシップ育成を研究することとした。

2. 研究の目的

(1)の目的は、リーダーシップ行動を測定する尺度の開発、及びその背景要因として教師の影響を検討することであった。また別途、追加的に、リーダーシップ行動と、生徒の学級適応との関係を縦断的に検討し、2つの将来目標の効果の違いについても検討した。

(2)の目的は、内発的将来目標に基づくリーダーシップ行動のキャリア発達に対する影響を検討することであった。(3)の目的は、上記(1)および(2)の研究成果を踏まえて、内発的将来目標に基づくリーダーシップ行動を育成するための手法 (プログラム) を開発することであった。

3. 研究の方法

(1)および(2)においては、高校生質問紙調査を実施して、データの解析を行った。(3)では

ワークシート等を活用したグループワークを開発して、まずは大学生に実施し、その効果を検証した。

4. 研究成果

まず研究のスタートとして、リーダーシップ行動尺度を開発した。その上で、この尺度を用い、先述した3つのテーマに沿った研究を遂行した。

(1)では、リーダーシップ行動を測定する尺度の開発及び教師の影響の検討に加えて、生徒の学級適応の縦断的検討を行った。まず尺度作成においては、集団主義的傾向及び過去のリーダー経験の有無といった高校生本人の回答に加えて、回答した高校生の各学級担当教員によるリーダーとしての資質に関するノミネーション調査を実施し、妥当性の高い項目を選定した。さらに、項目反応理論を用いて、特に識別力の高い項目群を選別した。その上で内的一貫性を確保し、リーダーシップ行動尺度の項目を精選した。その結果、高校生の回答と教師評定から妥当性が検討され、一定の信頼性 (内的一貫性) を持つ「リーダーシップ行動尺度」を作成することができた。次に、教師の影響については、教師の自律性支援的関わりや教師に対するモラルとの相関関係を検討した。その結果、リーダーシップ行動といずれも正の相関がみられた。このことから、リーダーシップ行動に対して教師が影響を与えている可能性が示唆された。最後に、学級における生徒の学級適応を縦断的に検討した。その結果、リーダーシップ行動は、学級内の他者から認められている気持ちである承認感を高めるという因果関係を見出すことができた。これは、リーダーシップ行動が、いわゆる学級の人気者である承認感の高い生徒が行う行動であるというよりは、リーダーシップ行動によって学級内の承認感を獲得できるような、社会的スキルとしての側面を有することが示唆されたと考えられる。さらに2つの将来目標の効果の違いについて検討するために、リーダーシップ行動および承認感に与える影響関係に関して共分散構造分析を行った。その結果、2つの将来目標はともにリーダーシップ行動に正の影響を与える可能性があるものの、承認感に対して正に関係しているのは、内発的将来目標のみであることが明らかとなった。これより、2つの将来目標にリーダーシップ行動を促進するが、承認感を高めるのは内発的将来目標のみであることが示唆された。

(2)では、内発的将来目標に基づくリーダーシップ行動とキャリア発達との関係について検討を行った。まず、キャリア発達に対する影響について、リーダーシップ行動及び将来目標と、キャリア意識の発達との相関係数を算出した。その結果、リーダーシップ行動とキャリア意識 (Action 及び Vision) との間には正の相関がみられた。これはリーダーシッ

プ行動がキャリア発達に正の影響を与える可能性を示唆するものと考えられる。また、将来目標とキャリア意識との関係では、内発的将来目標および外発的将来目標ともにキャリア意識と正の相関関係を有することが分かった。但し、キャリア意識に対する相関係数は内発的将来目標の方が有意に高かった。さらに、将来目標とリーダーシップ行動との関係についても、2つの将来目標ともに正の相関関係を有するが、内発的将来目標との相関係数の方が有意に高かった。これらの結果から、高校生においても内発的将来目標が、キャリア意識の発達およびリーダーシップ行動により強い影響を及ぼす可能性を示唆されたと考ええる。さらに、リーダーシップ行動とキャリア意識との関係性に対して2つの将来目標が与える効果を検討するために、2つの将来目標を平均点で高・低群に分けた上で、リーダーシップ行動とキャリア意識との相関係数を比較したが、大きな相関係数の差は見られなかった。これは、内発的将来目標は、リーダーシップ行動やキャリア意識に直接影響するのであって、その関係性に対して与える影響は強くないという性質を持つことを示唆したものと考えられる。

(3)では、まずは大学生を対象に、グループワークを利用した介入が行われた。グループワーク中では、各グループ内で、リーダーを決めた上で、簡単な作業課題に取り組んでもらった。その上で、途中、フォロワーのために尽くし、自他ともに成長することを目指すという内発的将来目標に基づくリーダーシップの重要性について説明した。また、そのためにはフォロワーの承認が重要なことも説明した。そして、その後実施した作業課題時には、各作業課題終了時にリーダーの良いところを指摘する「あたたかい言葉かけカード」をリーダーにプレゼントするという介入課題を課して、内発的将来目標に基づくリーダーシップ行動を促した。その結果、事前事後の差検定によって、リーダーシップ行動の達成と欲求が有意に高まり、フォロワーとしての行動ではリーダーの良い点を指摘しようとする他者高揚行動の高まりが有意傾向となった。

以上(1)から(3)の成果をまとめると、リーダーシップ行動は、教師の自律性支援によって促される点で、教師の影響が重要であること、内発的将来目標は外発的将来目標と比較して、リーダーシップ行動とより強く影響していることが示唆された。そのみならず、内発的将来目標が、学級内での承認感やキャリア意識の発達と関係していることが明らかとなった。さらに、グループワークにおける作業課題等で、内発的将来目標の重要性を指摘するなどの介入を行うことで、リーダーシップ行動を高められる可能性のあることが分かった。以上の知見から、リーダーシップ行動において、内発的将来目標を重視すべきことが確認され、またその方法まで確立され

たことから、本プロジェクトはキャリア教育や学校適応指導の展開に対して、一定の知見を提供しうるものと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

鈴木高志・村上達也・千島雄太・西村多久磨・鹿嶋真弓 (2016). 高校生のリーダーシップ志向性を高める要因の検討 日本カウンセリング心理学会 第48回大会 (環太平洋大学岡山県岡山市)

Suzuki, T., Nishimura, T., Kashima, M., & Murakami, T. (2016). Development of leadership scale for high school students: item response theory and teacher's nomination. The 31st International Congress of Psychology. (Yokohama, Japan).

鈴木高志・福住紀明・村上達也・西村多久磨・鹿嶋真弓 (2017). リーダーシップ行動と学校生活満足度の交差遅延効果モデル 日本心理学会第81回大会 (久留米シティプラザ福岡県久留米市)

〔図書〕(計2件)

鈴木高志 (2015). すぐできないという子へのかかわり 子どもをみんなのリーダーに 児童心理 69, 特集「勉強につまづいている子」Pp.86-90 金子書房

鈴木高志 (2018). 動機づけと学習意欲 はじめて学ぶ教職 第5巻 Pp.111-126 ミネルヴァ書房

〔その他〕

ホームページ等: 該当せず

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 高志 (Suzuki Takashi)
高知工科大学・共通教育教室・准教授
研究者番号: 90725938

(2) 研究分担者

村上 達也 (Murakami Tatsuya)
高知工科大学・共通教育教室・講師
研究者番号: 00743791

西村 多久磨 (Nishimura Takuma)
東京大学・大学院教育学研究科・学術研究員
研究者番号: 30747738

鹿嶋真弓 (Mayumi Kashima)

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育部
門・准教授
研究者番号：10644362

中村直人(Naoto Nakamura)
高知工科大学・経済・マネジメント学群・教
授
研究者番号：30207899

福住紀明(Noriaki Fukuzumi)
高知工科大学・共通教育教室・研究員
研究者番号：80801878